



三浦 廣巳

一般社団法人東北経済連合会 副会長

秋田の強みを力に変えて

秋田県の人口がまもなく100万人を切ることが決定的となった。非常に残念なことであるが、現実として受け止めなければならない。このような中、秋田県も各市町村もさまざまな知恵を出しながら行動してきている。しかし、いまひとつ住んでいる人々の危機感は感じられない。

この与えられた環境の中で、新しい時代に向かって秋田の活性化を実現するにはどうしたらいいのだろうか。これが私たちに与えられた、喫緊の課題である。

やはり、秋田の強みをしっかりと探し出し、それをブラッシュアップして世界に打って出ていくべきだと思う。

秋田は災害の少ない、冬は雪が降るものの穏やかな地域である。鉱山資源が豊富で風況もよく、新エネルギーの適地である。都市鉱山、太陽光発電、風力発電、水力発電、火力発電、地熱発電、バイオマス発電等、現在もエネルギーの宝庫である。さらに油田による天然ガス、シェールオイル等、これからの時代を担うエネルギーの中心地である。これを強みに新たな基幹産業として工業化、商業化していく。

このほか、製造業においても電子部品、自動車部品、航空機部品等、続々と新しい可能性が広がっている。

また、8世紀から交流のあった渤海国（現在の北朝鮮、中国東北部、沿海州）との歴史を踏まえ、秋田港をゲートウェイとした環日本海経済交流の活発化。これはわが国にとっても21世紀の国家的プロジェクトである。その中心的役割を果たすのが秋田県であり秋田港である。

中国国際貿易促進委員会延辺支会、沿海地方商工会議所と秋田商工会議所の3団体の経済交流会議を9月に秋田市で開催する。それぞれの地域、国の体制等、難しい問題を乗り越え、今回で4回目を迎えることができた。折りしも、安倍首相がプーチン大統領との首脳会談で、極東ロシアの開発発展を目指して行動していくことをお互いに確認し、毎年ウラジオストクで会談することまで決めた。これで秋田商工会議所にとって大きな舞台が出来あがったということを確認した。地理的優位性、歴史的背景、今現在の活動状況、すべてを力として沿海地方との関係強化、経済交流の活発化を進めていく。

秋田には、さまざまな強みが、まだまだある。これを活かすのは地元企業であり、経営者である。しっかりと現状を把握し、当事者として行動していく必要がある。秋田を出て行く若者を引き止める力は、魅力ある企業であり、それぞれの夢を実現できる働く場所である。それは、誰ができるのか。私たち地元中小企業の経営者しかできない。私たちが決意し、行動し、それぞれの企業を魅力あるものに変えていくことが、もっとも重要なことだ。誰に頼まなくとも、私たちがやれることだ。経営者が果敢に挑戦していくことで活路を見出していける。

私たちは、評論家でもない、解説者でもない、プレーヤーとして勝利を目指して戦う。

（秋田県商工会議所連合会 会長・みうら ひろき）